派遣留学報告書（2 月分）　　工学部 環境土木工学科　宅美尚汰

1. はじめに

半年間の留学生活も残すは１ヵ月となり、ここまで病気にかかることなく元気に過ごせた日々に、身近な人のサポートに感謝している。留学当初は、ご飯や気候、特に国民性の違いに戸惑いながらも少しずつではあるが、環境に慣れることが出来た。2 月は心に余裕が出来たこともあり、自分自身を俯瞰的に捉えることが出来た。環境適応能力に驚き、残りの留学生活の目標を決めた２月の学習面と生活面について報告する。

2. 学習面

授業は日を追うごとに内容が難しくなり、Reading の内容はより難しくかつ長くなり、Listening も同様である。Writing では１月に 800 文字、2 月には 1500 文字の課題が設定された。授業では文献の探し方や引用の方法などを学び、如何に効率よく書くかを教わった。

授業では話し合いの場面が多く、話す能力以外に、聞く能力が必要になる。国籍がまばらでそれぞれの国のアクセントへの戸惑いは今でもある。特にインド人のアクセントは一番難しい。同様に日本人のアクセントも外国人からして難しいと思われているのかもしれない。しかし、母国語を共通としない者同士が、第二言語の英語を用いて意思疎通を出来るのはすごいことである。どんなにインド訛りの英語でも、中国語のような早口の英語でも同じ英語であり、残り一か月に限らず、今後も学習は継続していき、更なる英語力の向上による意思疎通の向上を目指す。

先日、授業のテーマで欧米諸国のアジア人留学生、特に中国人留学生は受け身の学習が一般的であり、国民性の違いに関するメリット、デメリットに関して考える機会があった。メリットとしては授業中は静かであり、集中できる環境であること。デメリットとしては、学習中に疑問点などを常に持ち、解決しようとしないことによって、効率的な学習に妨げが出ること。また、生徒と先生の距離が遠くなることも挙げられた。日本人の観点から、「日本では授業後に友達や先生に聞くのが一般的であり、授業中に指名されない限り話すような機会はない」というと多くの人が文化の違いに驚き、日本人の礼儀正しさ故にこのようなことになるのだろうと感じていた。講義とゼミなどのように授業の規模による違いもあるが、欧米諸国の積極的な姿勢は見習いたい。

3. 生活面

滞在期間が長くなると旅行などでは想像できない問題がいくつか出てくる。先日、眼鏡の度数が合わなくなり、眼鏡屋さんで眼鏡を作ることにした。日本だと、眼科や眼鏡屋さんで視力を測定し、処方箋に基づいて眼鏡を作成するが、イギリスは眼鏡屋さんに眼科が付いていることがあり、視力を測定することが出来る。旅行などの英語とは違い、眼鏡屋さんでの英語はより専門的な会話で、最初は不安だったが、数か月も滞在すると専門的な単語は出ないにしろ、言いたいことは伝えれるようになったと感じることが出来た。日本での日本語によるコミュニケーションの際に、伝えたいことが伝えられないなどのようなストレスは皆無だが、英語圏での第二言語によるコミュニケーションはそのようなストレスが大きい。しかし、今回眼鏡を作成する過程において、これは留学前や留学直後は今回のようにスムーズに作成することが出来なかっただろうと思うと、英語力のみならず、これからの自信に繋がった。

課題などが落ち着くと、クラスメイトとご飯を食べる機会や出かける機会が増えた。お互いの国の特徴などを話し合い、日本で本やインターネットを用いて分かり得る以上のことを知ることが出来る。それと同時に今以上に日本を知る必要があることに気付いた。各国共通して自国を誇りに思い、一番だと思っている。一番というのは権威などの力ではなく、他国にはない文化や特徴のことである。また、日本人はおもてなし精神が世界で一番だと思っているかもしれないが、クラスメイトと関わるうちに日本以上におもてなし精神が強いのではないかと思うことが多々ある。

4. おわりに

留学生活が残り僅かになると、留学当初のネガティブな気持ちなどが少しばかり懐かしく思える。イギリスに着いたばかりの頃はこれからの生活や、日本に対するホームシック、更には英語力について考えてばかりで、明るいことは決してなかった。

イギリスは集中豪雨のような強い雨はほぼないが、弱い雨が連続的に降ることがある。雨ばかりと気持ちが滅入ることもあるが、雨が上がると綺麗な虹が空に架かることもある。いいことばかりではないが、きっと頑張って居たら、雨上がりの虹のようにいい事があると思うと残りの留学生活も乗り切れそうだ。

雨上がりのレスター市街

以上で 2 月分の月例報告を終了する。